

Hongwanji Buddhist Mission of Australia

シドニー本願寺報

732 Pacific Highway Gordon
PO Box 292 Lindfield (Sydney)
N.S.W. 2070 AUSTRALIA
Phone : (02) 9403-1256
Email : hbma@optusnet.com.au
http://www.hongwanji.com.au

降誕会&年次総会を開催

5月19日(日)



今年度のお盆
法要は8月第2
日曜日の11日
を予定しており
ます。カレン
ダーにしっかり
書き入れて参拝
を予定して下さ
いますよう宜し
くお願い申し上
げます。合掌



親鸞聖人

去る5月19日にオーストラリア開教事務所にて、浄土真宗の御開山・親鸞聖人の誕生を祝う降誕会が勤められ、それに引き続き今年度の年次総会が執り行われました。

この日はお参り下さったディビッドソン・ビクター理事長をはじめ、三井ブラウン綾子さん、ファング・ノーマンさんら、いつもお参り下さる皆様と共に、親鸞聖人がこの世にお生まれになられたことを法要を通じて喜ばせて頂きました。

この日のお勤めでは「降誕会の歌」を斉唱した後、『正信偈』を「十二礼」の節でお勤め



降誕会に集った皆さんと (19/05/19)

をし、お焼香の後、子供たちへの法話、そしてこの日お参りできなかったグッテンビー師から送られ

て来た英語法話(英文ページをご参照下さい)を紹介し、最後に日本語の法話をお取次ぎさせて頂きました。

法話では、今を生きる人たちの時間の使い方を考えるところから如何に毎日を生きるかについてお話ししました。

一世の中は大変便利になり、携帯やパソコンの普及で通信や情報の検索が瞬時に出来る様になって来ています。しかし、現実にはそうやって便利になった分、何かを犠牲にしているように感じます。実際に面と向かって他の人と話をする時間も無い位に、一日の起きている貴重な

時間の内、携帯等の為に多くの時間を費やし、他のことが出来ない状態を作り出して於いて、それで「忙しい忙しい」と言っている状況がみられます。



尊前でお焼香をする亜美ちゃん。

お荘厳されたご本尊

(2ページへつづく)

もくじ

降誕会&年次総会	1-2
お寺の予定表	1
宗祖降誕会法話	1-2
ご門主様ご親教	2-3
今月のことば	3
HBMA ニュース	4
祥月案内	4
ご懇念録	4

★ お寺の予定表 - Calendar ★

May	29(Wed)	5:00 pm	カトリック大司教主催イフター晚餐会/After Dinner @ St Mary's Cathedral House invited by The Most Rev Anthony Fisher OP
Jun	2 (Sun)	11:00 am	日曜礼拝/Sunday Service
	9 (Sun)	11:00 am	六月祥月法要/June Shotsuki Memorial Service
	16 (Sun)	11:00 am	日曜礼拝/Sunday Service
	17 (Mon)		〔本願寺報発行 / New Bulletin Issue〕
	23(Sun)	11:00 am	日曜礼拝/Sunday Service
	30(Sun)		《休座 / No Service》
July	7 (Sun)	11:00 am	七月祥月法要/July Shotsuki Memorial Service
	14(Sun)	11:00 am	日曜礼拝/Sunday Service





六字名号

『…親鸞聖人は僧侶であることも捨て、俗人であることも捨てられた状態から更にご自身の念仏の味わいを深めて行かれました。…』

(本文より)



お焼香するノーマンさん
(上)、嶺くん&由信君(下)
(19/05/19)



現代の一番大きな弊害は、選択肢が多すぎる事と、娯楽が多すぎる事だと感じています。気を散らすものが何もないければ、ゆっくりと自



焼香するデビッドソン理事長

分の研究したい事や、読書、四季の移り変わり、風や空気を感じ自分なりに思ったことを自分の言葉で表現したり、さらに自分の表現を更に工夫して次の時限に高めて行くことができたかもしれません。しかし、現実には30年以上前には殆ど使われていなかった携帯等にかかなりの時間を費やすこととなっています。その時間があつたなら、何か新しい自分を探るための時間に充てることが出来たかもしれません。親鸞聖人の時代もそうですが、さらに昔のギリシャの哲学者達には自分と向き合える十分な時間がありそこから新しいことを生み出せているのだと察する次第です。

生きている事の意味とは？なぜ太陽は明るいの？地球はいったいどうなるのか？そんな疑問や自分なりの想像がわき上がってきてても、テレビや携帯をつけた途端に一気に消え去ってしまいます。手放すと言うことは大変ですが、必要のないものを持ち続けて、それで大切な物を手に入れられないのであれば、それは大変な損失です。必要のないものを切り捨てる、と言うことは時に大変なストレスとなりますが、それをしないと見いだせないものもあります。

親鸞聖人は僧侶であることも捨て、俗人であることも捨て、非僧非俗となられた状態から更にご自身の念仏の味わいを深めて行かれました。巷で毎日をあくせくと生きる仏道修行も出来ない人たちが平等に救われて行くお念仏の教えを民衆と共に畑や田を耕しながら分かりやすく伝えられ、90歳になるまでご自分が理解された事を書き続けられ、浄土真宗の教えの本と成る『教行信証』を示されたのでした。その親鸞聖人がお生まれになられたことを降誕会の法要を営む中で一緒にお祝い致しましょう、とお手継ぎさせて頂きました。ー

そして最後は皆で『恩徳讃』を唱和して無事法要を終えることができました。

法要に引き続き、今年の「年次総会」を法要参加者とともに開催し、開教使からの報告(翌月掲載予定)、平成30年度決算、令和元年度予算並びに行事計画、等が全て全会一致で承認されました。

本山からも、これまで同様の支援を引き続き受けることが継続されており、また、一昨年前まで、海外のサポーターの一人か

らの多額な寄付を納めて頂いたこと、皆様からの毎年の会費や特別寄付は開教事務所の貴重な財源となっております。本当に有り難いことです。今後もこれまで同様にオーストラリアの地に布教を継続していく所存ですので、今後ともご支援宜しくお願い致します。

また、理事の顔ぶれは変わりませんが、デビッドソン理事長が、理事には留まるが、理事長を交代して欲しい旨の意向を示され、もし彼が推薦するメンバーが推薦を了承した場合、臨時総会を開き、新しい理事長を決める事となりますが、その臨時総会が開かれるまでは、現状維持となります。理事となっていないメンバーの皆様も、是非一致協力し開教事務所を盛り上げて頂ければ幸甚です。

最後に、お参りして頂いたデビッドソン・ビクターさん、三井ブラウン綾子さん、フロング・ノーマンさん、そして家内の由紀美へ、美味しいお昼やデザートを用意してくれましたことにお礼申し上げたいと思います。本当に有難うございました。そしてこの日集まってくれた子供たちー我が家の由信、亜美、頌を含め、今年度の降誕会にお集まり頂いた全ての皆様、本当にありがとうございました。

皆様のお蔭をもちまして無事に今年の宗祖降誕会をお祝いすることができ、総会も無事終えることができました。今後とも皆様のご協力をどうか宜しくお願い申し上げます。ようこそお参り下さいました。 合掌

開教事務所長 渡部重信



「私たちのちかい」についてのご親教

(昨年末に厳修された全国門徒総追悼法要・秋の法要でのご門主様からの親教より)



本日は、ようこそ全国門徒総追悼法要・秋の法要へお参りくださいました。この法要は、この一年間にご往生された全国のご門徒の方を追悼する法要であります。お亡くなりになられた方をお偲びして、浄土真宗のみ教えを聞かせていただくご縁といたしましょう。

今日の社会状況をうかがいますと、過疎化や少子高齢化、また価値観の多様化などがより一層進んだ結果、従来のように、お寺と地域社会やご門徒の方々が身近な関係にあった時代とは大きく変化しました。ご門徒のご家庭においては、例えば今までのように、み教えが祖父母から子や孫へというように代々受け継がれていくことも難しくなり、その結果、お寺との関係も徐々に希薄になってきているように思います。しかし、一方でこのよ

うな社会であるからこそ、従来のような伝統的なお寺との関わり方ではなく、一人の人間として仏教や浄土真宗のみ教えに、生きる依りどころを求めている方も少なくないのではないでしょうか。私たちには、そのような方々の思いに応え、さらには後に続く世代の方々のために、先人の方々から受け継いだお念仏のみ教えを正しく、また、わかりやすく伝えていく責務があります。

ところで、私は伝灯奉告法要の初日に「念仏者の生き方」と題して、大智大悲からなる阿弥陀如来のお心をいただいた私たちが、この現実社会でどのように生きていくのかということについて、詳しく述べさせていただきました。私たちは、縁起や諸行無常というお釈迦様がさとられたこの世界のありのままの真実に気づくことができず、常に自己中心の心で物事を捉え、その結果として悩み悲しんだり、また、他人と争ったりしています。阿弥陀如来はこのような煩惱具足の私を悲しまれ、そのままに救い取ろうと願われてはたらきつづけてくださっています。

この私のために願われた阿弥陀如来のお慈悲のお心をいただいたならば、凡夫だから「何もできない」、「何もしない」、あるいは「何をしてもよい」というような姿勢とはおおよそかけ離れた、すなわち、少しでもそのお心にかなうよう身を慎み、言葉を慎んで、他人の苦しみや喜びを、自らの苦しみや喜びとするような人間につくり変えられていくのです。そして、このことが、自他ともに心豊かに生きることのできる社会の実現のための大きな一歩となるのです。

今、申し述べましたことを踏まえ、私はこのたび、この「念仏者の生き方」を皆様により親しみ、理解していただきたいという思いから、その肝要を「私たちのちかい」として次の四カ条にまとめました。

私たちのちかい

自分の殻に閉じこもることなく
穏やかな顔と優しい言葉を大切にします
微笑み語りかける仏さまのように

むさぼり、いかり、おろかさに流されず
しなやかな心と振る舞いを心がけます
心安らかな仏さまのように

自分だけを大事にすることなく
人と喜びや悲しみを分かち合います
慈悲に満ちみちた仏さまのように

生かされていることに気づき
日々に精一杯つとめます
人びとの救いに尽くす仏さまのように

この「私たちのちかい」は、特に若い人の宗教離れが盛んに言われております今日、中学生や高校生、大学生をはじめとして、これまで仏教や浄土真宗のみ教えにあまり親しみのなかった方々にも、さまざまな機会に唱和していただきたいと思っております。そして、先人の方々が大切に受け継いでこられた浄土真宗のみ教えを、これからも広く伝えていくことが後に続く私たちの使命であることを心に刻み、お念仏申す道を歩んでまいりましょう。本日はようこそご参拝くださいました。

2018（平成30）年11月23日

浄土真宗本願寺派門主 大谷光淳



今月のことば

じつぽう によらい
十方の如来は
しゅじょう いっし
衆生を一子のごとくに

れんねん
憐念す

《浄土和讃》
じょうどわさん

親鸞聖人（一一七三～一二六三年）
しんらんしょうにん



“The Tathagatas
of the ten quarters
compassionately regard
each sentient being
as their only child.”

“Hymns of the Pure Land”
by Shinran Shonin (1173 - 1263)



真宗教団連合刊
「2019(令和元)年法語カレンダー」より

南天寺主催お釈迦様誕生節の式典に参列

2019年5月11日(土)

今年もウーロンゴンにある南天寺が主催し、シティのタンバロングパークで開催されたお釈迦様の誕生を祝う式典に参列させて頂きました。このパーク全体にルンビニの園を展開し、灌仏が出来る様に誕生仏も沢山設置され多くの方々がお釈迦様に甘茶をかけていらっしゃる光景が見られました。

合掌



南天寺の秘書を勤める妙友師と



シャキャ・ゴンマ・トリジン・リンポシェ 第42世の講演会に出席

5月7日の夜6時から、シドニー大学で開催されたシャキャ派リンポシェの講演を拝聴して参りました。「この混乱の世に於いて如何に幸せになれるのか？」と題し講義され、多くの方が聞き入っていました。



スク립チャークラスで勉強中!



ホワイトボードに足りない言葉を完成させました(22/05/19)

ゴードン西小学校でのスク립チャークラスでお釈迦様の生涯について学んでいます!



慈済基金会でのウェサク法要に参列



招待された他の仏教の代表者らと(12/05/19)

今月12日の午後、慈済基金会オーストラリア本部(Tzu-Chi Australia)にて開催された、ウェサク法要&母の日の法要に今年も招かれ参列させて頂きました。合掌



六月の祥月法要

June Shotsuki Memorial Service

Browne, Leonard Keith ブラウン・レン様 (2016)
Nakamura, Torao 中村 寅雄 様 (1984)
Hayashi, Chima 林 ちま 様 (1995)

上記の方々が6月に祥月を迎えられます。ご家族、或はご縁のございます方は、来月6月9日午前11時より厳修されます祥月法要にどうぞお参り下さいませ。合掌

ご 懇 念 録

Expression of Dana/Gratitude

この一ヶ月間で、下記の方々より総計 2,216ドルのご懇志をご進納頂きました。有り難うございました。また、お賽銭箱には、計12ドルが浄財として参拝者より喜捨して頂いておりました。この浄財は本願寺設立基金へ進納されました。有り難うございました。合掌

In the past month, donations to the amount of \$2,216.00 were offered to the Amida Buddha through the Hongwanji Buddhist Mission of Australia. HBMA members and attendants have also deposited \$12.00 in the donation box which also deposited to the Hongwanji Temple of Sydney Building fund. The HBMA acknowledges the donors and would like to express our sincere gratitude to the following for their generous donations:

- * Rev George Gatenby - Pledge contribution
- * Ms Kaoru Morioka - Pledge contribution and donation
- * Mr Michael Chen - Donation for Buddhist Books
- * Mr Victor Davidson - Membership (1 Year)
- * Ms Ayako Mitsui-Browne - Donations
- * Ms Hitomi Howard - Pledge and Shotsuki Donation
- * Tzu-Chi Australia - Special Donation
- * Mr Jonathan Shearman - Donation
- * Buddhist Council of NSW - Chaplain fund
- * Japan Club of Sydney - Honorarium for printing



Thank you very much in Gassho



BULLETIN

In today's day and age where it is said that the younger generations are distancing themselves from religion, it is my hope that these verses will be used during various engagements and gatherings. Let us continue on the path of the Nembutsu, as we have engraved in our hearts, that we must pass on to the coming generations far and wide, the Jodo Shinshu teaching that was carefully transmitted to us by our forebears.

November 23, 2018

OHTANI Kojun
Monshu
Jodo Shinshu Hongwanji-ha

Rev Watanabe Attended Vesak Celebration events organised by Nan-Tien, and Tzu-Chi 11th and 12th May 2019



(Top) Rev Watanabe with Ven Miao You, Secretary & Board of Directors of Nan Tien Institute. (11/05/12).

Rev Watanabe was once again invited to attend the

Vesak Buddha's Birthday Celebration event at Tumberlong Park in Darling Harbour organised by Nan Tien Temple on 11



(Top) Rev Watanabe with Mr Robert Kok, City of Sydney councillor (Right) Buddha's family statues, King Suddhordana, Queen Maha Maya, and Maha Pajapati. (11/05/19).



Interfaith prayers for peace were conducted. (11/05/19).

May, and also to Tzu-Chi Australia on 12 May straight after the regular Sunday service at HBMA. In Gassho,



Rev Watanabe with other monks from many temples gathered at Tzu-Chi Australia's Vesak service. (12/05/19).



Rev Watanabe went to listen to a public talk made by **His Holiness The 42nd Sakya Gongma Trizin Rinpoche** (Left) at the University of Sydney on 7 May. His talk inspired all listeners who attended.

Buddhist Scripture Class on move!



Buddhist Scripture class students of the Gordon West Public School where Rev Watanabe teaches every week are now studying about the life of Shakyamuni Buddha by reading some of Buddha's sacred books and watching educational

Children are trying to answer missing words of Buddha's sacred messages.



video about the life story of Buddha.

In Gassho



A new-born child depends wholly on its parents. In the spiritual life our parents are Shakyamuni Buddha and Amida Buddha alone – ‘Shakyamuni and Amida are compassion’s parents.’ ‘Namo Amida Butsu’ is calling to them in secure trust, with eyes only for them, and serene thankfulness for their warm and secure embrace.

In Gassho,
Rev George Gatenby



Message from Gomonsu-sama about “Our Pledge” at the perpetual memorial and autumn service at Hongwanji on 23 Nov 2018

Message on “Our Pledge”

Thank you for attending the perpetual memorial and autumn service at Hongwanji today. This annual service is in remembrance of all the Jodo Shinshu followers who passed away during the year. Let us take this opportunity to appreciate the Dharma with a feeling of respect to our deceased predecessors.



OHTANI Kojun, Monshu
Jodo Shinshu Hongwanji-ha

Society today is facing concerns including the depopulation of rural areas, declining birth rate, rapidly aging population, and diversification of values, and such issues have greatly transformed the close ties created for a long time between Buddhist temples and their members in Japan. This social trend makes difficult the long established Japanese custom that religious tradition is handed down within the household from generation to generation to remain intact, and consequently, has led to the weakening connection between the people and temple.

Resulting from this social trend however, with conventional ties between the temple and its members changing, quite a few people have begun seeking spiritual comfort in teachings like Buddhism and Jodo Shinshu. To be able to address the individual’s spiritual quest and for the sake of coming generations, it obliges us to follow in the footsteps of our forebears to pass the Nembutsu teaching on correctly and in a way that is easy to understand.

On the first day of the Commemoration on the Accession of the Jodo Shinshu Tradition, I delivered a message entitled “A Way of Living as a Nembutsu Follower,” expressing how we should live in the real world as one who encounters the



great wisdom and compassion of Amida Tathagata. Although Sakyamuni Buddha expounds the truth of this world in the principle

of impermanence or dependent origination and other teachings, we are unable to accept reality as it is and have a tendency to view things through our own egocentric point of view. As a result, we ourselves become disheartened and become embroiled in quarrels with others. Saddened by our ignorance, Amida Tathagata has vowed to continue working to save us just as we are.

In truly appreciating the Buddha’s compassionate aspiration directed to each of us, we naturally become enabled to aspire to act and speak in accordance with the Buddha’s wish and feel the joy and sadness of others as our own. It is totally apart from the self-destructive attitude that takes advantage of our selfish human nature as an excuse for giving up any good-deeds and doing nothing, or thinking “we can do whatever we want because we are foolish beings.” Thus, our efforts of trying to be in accord with the Buddha’s wish is the first step toward realization of a society in which everyone can live life spiritually fulfilled.

On this occasion, with the hope of presenting it in a more familiar and understandable way, I have summarized the essence of the message into the following four verses of “Our Pledge.”

Our Pledge

Breaking out of my shell
I shall carefully share a warm smile
and speak gentle words
Just like the kind Buddha.

Not becoming lost in my greed,
anger, and ignorance
I shall be open-minded and act accordingly
Just like the calm and peaceful Buddha

Not putting myself first
I shall share in the joy and sadness of others
Just like the compassionate Buddha

Realising the gift of life we have received
I shall live each day to its fullest
Like the Buddha
who continues to emancipate all.

(Continues on page 4)



"Thank you" to Ms Ayako Mitsui - Browne, Mr Norman Fung, for bringing delicious cakes! and Yukimi for the beautiful dishes. Thank you to all the children - Yushin, Ami & Sho - for your presence at this important service. All of the devotion of these people plus those who wanted join but could not make it because of

other commitments and submitted Letters of Proxy showing their concern towards our mission are very much appreciated, and together let us carry our HBMA forward.
In Gassho,

Rev Shigenobu Watanabe

Gotan-e Dharma Message

By Rev George Gatenby

Gotan-e 2019

*Shakyamuni and Amida
are compassion's parents;
Using all means
they skillfully lead us
And in us
the supreme entrusting heart
Do they awaken.*

(Hymns of the Pure Land Masters 74)



Rev George Gatenby @
Obon 2018

Gotan-e on 21 May is the celebration of Shinran Shonin's birth. It is a time for special events at our mother temple, Honzan. There is a **noh** play and other traditional entertainment, as well as **tea ceremony**. It sounds like a real birthday party. A birthday celebrates the wonder of a new being coming into the world – full of potential. As time passes when we come to our birthdays, we often look back at how life has gone for us. Where were we and what were we doing on our last birthday; how will things go in the future.

A well-regarded biography of Shinran was written by the late **Rev Dr Alfred Bloom**, who was a professor at Hawaii University and a devoted follower of Shinran. But Dr Bloom is largely dependent on Shinran's own extensive writings and scant historical detail to put together his life story. The discovery of a collection of letters by Shinran's wife **Eshin-ni** has helped provide more information about him. Eshin-ni's letters give us a very close and familiar insight into Shinran and some important events in his life.

Shinran's own writing is the basis upon which the teaching and practice of the nembutsu in Jodo Shinshu is built. It has been and continues to be the primary source of inspiration for those of us who see



BULLETIN



Honen Shonin
1133-1212

him as their teacher. When Ren-nyo Shonin, a descendant of Shinran and the eighth abbot of the Hongwanji in Kyoto, is recorded as saying,

'The scroll of the sacred object of reverence should be kept hanging until it wears away; the sacred scriptures should be read over and over again until they become thread-bare,'

(Goichidaiki-kikigaki 5)

I think he means the writings that Shinran left for us – especially his hymns, commentaries and letters.

The late nineteenth century Shin Buddhist minister and teacher **Manshi Kiyozawa** wrote,



Shinran Shonin
1173 - 1263

'I speak from experience when I say that to attain religious conviction, we should not depend on anything but religion itself. Wealth, family, friends, parents, brothers, sisters, career, ability, education, knowledge or nation should not matter.'

(December Fan, p. 9)

I think that Shinran was such a person. He depended on nothing but the Dharma from the time that he entered monastic life at the age of nine until the end of his life. He lost his parents when he was young and was raised by his uncles. But most of his life was firstly a quest for spiritual understanding and then serving as a dedicated teacher of those who sought to join him in the life of nembutsu.

In this he was like Shakyamuni Buddha who, towards the end of his life on earth said to his disciples, *'Therefore in this world you should be islands unto yourselves, your own refuge, depending on no one else, with the Dharma as an island and the Dharma as a refuge, depending on nothing else.'*

Shinran's principal realisation and the heart of his message was Other Power. He said of this that *'Other Power is none other than the power of the Tathagata's Primal Vow.'* (CWS Vol 1, p. 57) And, for us, *the Primal Vow is the Name – Namo Amida Butsu. He also said that 'Other Power is entrusting ourselves to the Primal Vow ...'* (p. 525)

(Continues on page 3)

BULLETIN

Volume 20 - No. 5
May 27, 2019

Hongwanji Buddhist Mission of Australia



PO Box 292 Lindfield (Sydney)
N.S.W. 2070 AUSTRALIA
Phone : (02) 9403-1256
Mob : 0412 - 396 - 014
Email : hbma@optusnet.com.au
http://www.hongwanji.com.au

2019 GOTAN-E Service and AGM were held on 19 May 2019



Group photo was taken after the Gotan-e service. (19/05/19)



On 19 May, HBMA members, and supporters gathered for the Gotan-e service and the Annual General Meeting. We all expressed our highest respect and gratitude to Shinran Shonin, the founder of Jodo Shinshu, by celebrating his birth into this world. And the service was followed by the 2019 Annual General Meeting.

During the ceremony, we chanted the Shoshin-ge with Junirai tune, and sang "Shuso Gotan -e (Founder's birthday)" together. Then, I delivered a message for children and read English message written by Rev George Gatenby who unfortunately could not make the trip this time, and I also extended my Japanese Dharma message.

Mr Davidson (top), Mr Fung (below) offering incense.



Shinran Shonin
1173-1263

You may find Rev Gatenby's Dharma message on next page. After the service, the AGM was convened. I was again elected as Chairperson. All activities of HBMA during the year, and financial reports were presented. New budget for the current calendar year

Inside This Issue

Gotan-e celebration and HBMA AGM	1-2
Gotan-e message by Rev George Gatenby	2-3
Gomonshu-sama's Message on "Our pledge"	3-4
HBMA News- Vesak Celebrations/Scripture on move	4



HBMA shrine was beautifully decorated for Gotan-e. (19/05/19)

was approved. Everyone also agreed that the need and hopes for the continued existence of HBMA is still very high, and that HBMA should continue functioning here in Sydney in future. Therefore whatever help you can give to our mission will be greatly appreciated. Please also share your thoughts about our mission with us.

During the month of September, I am again planning to do a fundraiser "Peace Run/Marathon" when the Sydney marathon take place. Therefore, if you wish to donate towards this, it will be much appreciated. Your support is always greatly appreciated! In any case, if you wish to run with me, you would be most welcome!



Sho (top), Yushin and Ami (below) offering incense.



The membership of the Board remains as before until we can arrange a special AGM, because Mr Victor Davidson, present HBMA President wishes to step down (he will still remain as a member of the Board of Directors), and try to nominate a new President. When he find the person who will accept the position of a new President, we will have a special AGM which will be most likely at the Obon service in August. Anyhow, please give your full support to our Board of Directors.

Thank you Mr Victor Davidson for serving as a president for many years! Another BIG

(Continues on page 2)